

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	映像音響学科	夜・通信	1080	160	
	電気通信工学科	夜・通信	2040	160	
	食品生命科学科	夜・通信	230	160	
	建築工学科	夜・通信	1830	160	
	建築工学研究科	夜・通信	900	80	
	測量環境工学科	夜・通信	975	160	
	二級自動車工学科	夜・通信	2128	160	
	一級自動車工学研究科	夜・通信	2490	160	
	ICT ライセンス学科	夜・通信	66	4	
(備考) ※「ICT ライセンス学科」は「単位制、他は時間制。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.oist.ac.jp/report.html> (本校 HP) にて公開している。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
2、3月 教育課程編成委員会（前年度第2回目）	
3月	シラバス作成 学科内での検討を経て、全学科共通のフォームでシラバスを作成
4月	学科ごとに「学科ガイドブック」としてシラバスも学生に配付
6月	学校のホームページ上で公表
6月	教育課程編成委員会（当該年度第1回目） 出席者：校外委員2名、校長、教頭、教務次長、グループ長、教務課長、学科主任、学科教員、事務局長
7月	学校関係者評価委員会 出席者：校外委員（各学科1名、卒業生、学生支援会）、校長、教頭、教務次長、グループ長、学科主任、事務局長
9月	学科ヒアリング 当該年度の学科運営状況の確認と次年度の教育課程計画を立案。この際には、教育課程編成委員会、学校関係者両委員会での提案等を参考にする。 出席者：常務、校長、事務局長、営業推進部長、教頭、教務次長、グループ長、学科主任、広報企画課長、進路指導課長
授業計画書の公表方法	https://www.oist.ac.jp/report.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
□学生の成績評価 学生の成績は、筆記試験、実技試験、提出物、出席率、授業態度を総合して次の評価区分で表し、C以上で当該授業科目を認定することとしている。 S（秀）－A（優）－B（良）－C（可）－D（不可）	
□進級・卒業の認定 進級・卒業の認定の要件は学科によって異なる。成績、出席データは情報システムにて計算、作表処理して出力し、進級・卒業要件を満たすかどうかを学科内で確認して判断を下す。	
□進級・卒業判定会議 毎年3月初旬に、全学科が判定結果を持ち寄って出席者全員に状況を説明し、最終的に校長が決定を下す。 出席者：教務系の管理職を含む全教員と事務局長	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。		
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)		
□成績評価指標		
上記2の評価区分は、筆記試験、実技試験、提出物、出席率、授業態度を総合して決定する評価点による。この評価区分に下記のようにG P Aポイントを設定している。		
評価点	評価区分	G P Aポイント
100点～90点	S	5
89点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
59点以下	D	1
□G P A指標値の算出と成績分布		
G P A指標値は情報システムで計算・集計する。さらにその結果から、成績の分布状況の把握に供するグラフを作成する。		
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.oist.ac.jp/report.html □修学支援・職業実践専門課程／履修科目認定および進級・卒業認定の条件、成績指標算出方法	
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。		
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)		
□卒業認定の具体的方針		
1. 卒業認定要件－卒業のためにはまず下記4つの要件を満たす必要がある。		
(1) 定められた学納金を完納していること。		
(2) 全科目の平均出席率が、学科ごとに定められた出席率以上であること。		
(3) 全科目に対する認定科目（C評価以上の科目）の割合（科目認定率）が、学科ごとに定められた率以上であること。		
(4) 授業態度、生活態度等の素行が良好なこと。		
2. 進級・卒業判定会議		
上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。		
□公表		
卒業要件を満たすための科目認定に必要な出席率や科目認定率に学科による違いはあるが、扱いは同様であるので、ここでは学科ごとの記載はしない。ホームページ上で公表している。		
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.oist.ac.jp/report.html □修学支援・職業実践専門課程／履修科目認定および進級・卒業認定の条件、成績指標算出方法	

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	岡山科学技術専門学校
設置者名	学校法人岡山科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.oist.ac.jp/report.html □情報提供ガイドラインに基づく情報公開（「財務諸表」を含む）／令和7年6月1日現在／Ⅷ 学校財務（情報提供ガイドラインの項目8）
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

(1)映像音響学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	映像音響学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1830 単位時間／単位	360 単位 時間／単位	840 単位 時間／単位	630 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			1830 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		68 人	0 人	3 人	4 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件－まず下記4つの要件を満たす必要がある。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認

定されていること。
※上記１の（２）と（３）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (87.5%)	2 人 (12.5%)
（主な就職、業界等） (株)アクシス、(株)フルライトユニオンコーポレーション、玉島テレビ放送(株)、(株)J o i n t l y、(株)篠本照明、(株)ウィザード、グッドラック・プロモーション(株)、(株)プロサウンド、(株)マーキュリー、(株)水光エンジニア、(株)サンソレイユ			
（就職指導内容） 県外で働いている卒業生の話事前に聞くなどのミスマッチ対策や、エントリーシート及び履歴書添削、面接指導による。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 映像音響処理技術者認定 18 人受験 17 人合格 舞台機構調整技能士 3 級 42 人受験 37 人合格 舞台機構調整技能士 2 級 15 人受験 6 人合格 第二種 電気工事士 27 人受験 11 人合格 ビジネス著作権 18 人受験 9 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	5 人	9.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。精神的なことも含め課題のある学生へのケア。		

(2) 電気通信工学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	電気通信工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2160 単位時間／単位	930 単位 時間／単位	90 単位時 間／単位	1140 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			2160 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		39 人	4 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社、旭テクノプラント株式会社、NTT データカスタマサービステクノロジ株式会社、株式会社ソルコム、株式会社大電、JR 西日本電気システム株式会社、旭日電気工業株式会社、JFE スチール株式会社西日本製鉄所、浅海電気株式会社、中国四国管区警察局、鮪 ひらど、双葉電機株式会社、北話エンジニアリング株式会社、株式会社木多電気設備			
（就職指導内容） 履歴書作成や企業研究、面接指導などを行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種 電気工事士 24 人受験、19 人合格 第二種 電気工事士 16 人受験、13 人合格 工事担任者 第一級デジタル通信 2 人受験、2 人合格 2 級電気工事施工管理技士 7 人受験、2 人合格 第一級 陸上無線技術士 22 人受験、3 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(3) 食品生命科学学科

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		食品生命科学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1940 単位時間／単位		1050 単位 時間／単位	90 単位 時間／単位	800 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				1970 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
50 人		10 人	1 人	2 人		3 人		5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） テイカ（株）、日本総合科学（株）、タカキベーカリー（株）、（株）モンテール			
（就職指導内容） エントリーシート及び履歴書添削、面接指導などによる。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中級バイオ技術者認定試験 10 人受験、4 人合格 環境測定管理士 3 級 12 人受験、4 人合格 健康予防管理士 10 人受験、1 人合格 食生活アドバイザー 2 人受験、1 人合格 食品衛生責任者 2 人受験、2 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(4) 建築工学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	建築工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2010 単位時間／単位	990 単位 時間／単位	240 単位 時間／単位	780 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			2010 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		46 人	2 人	3 人	7 人	10 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24 人 (100%)	10 人 (41.6%)	14 人 (58.3%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） （株）アイム・コラボレーション、（株）イシン住宅研究所、（株）インテリア川井、 河野建設（株）、佐藤建設（株）、（株）ジェイアール西日本ビルト、（株）中本屋工 務店、中野建築(有)、n'tec（株）、町野築炉工業事務所、(株)黒川建築設計事務所			
（就職指導内容） 履歴書や文章作成指導、企業研究、面接指導など。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2 級 建築施工管理技士(学科) 23 人受験、 7 人合格 建築積算士補 21 人受験、12 人合格 福祉住環境コーディネーター 3 級 16 人受験、 3 人合格 福祉住環境コーディネーター 2 級 1 人受験、 1 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	3 人	6.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、精神的身体的事由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学科のさらなる魅力づくり、きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(5) 建築工学研究科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	建築工学研究科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	900 単位時間／単位	660 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	240 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			900 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人		8 人	0 人	3 人	2 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (40%)	3 人 (60%)
（主な就職、業界等） （株）東京組、アルファプラス（株）			
（就職指導内容） 履歴書の書き方や面接、業界研究の指導などを実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士(学科) 15 人受験、8 人合格 二級建築士(製図) 8 人受験、6 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	10 人	66.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。		

(6) 測量環境工学科

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		測量環境工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2 年	昼	1920 単位時間／単位	1485 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	435 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位		
			1920 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
50 人		22 人	0 人		3 人		3 人		6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 株式会社街会社大本組、株式会社エフ・ケー・シー、西日本高速道路メンテナンス関西株式会社、株式会社光南、株式会社小野田工務所、株式会社エクセル調査設計、宮崎建設株式会社、株式会社巧和、浅野土地家屋調査士事務所、岡山県庁、倉敷市役所			
（就職指導内容） 土木業界の職種の違いについて丁寧に説明。面接練習なども行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士補 養成施設のため卒業生全 12 人が取得 2 級 土木施工管理技士 10 人受験、2 人合格 1 級 土木施工管理技士 1 人受験、1 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との連携。		

(7) 二級自動車工学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士		
工業		工業専門課程	二級自動車工学科		○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2 年	昼	2352 単位時間／単位	928 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	1424 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位		
			2352 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
100 人		86 人	44 人		3 人		2 人		5 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	2 人 (12.5%)	11 人 (68.8%)	3 人 (18.8%)
（主な就職、業界等） 岡山トヨタ（株）、西日本三菱自動車販売（株）、（株）ヤナセ、トヨタカローラ岡山（株）、トヨタカローラ大阪（株）、いすゞ中国四国（株）、UDトラックス（株）株式会社 BRAVE			
（就職指導内容） 面接や履歴書の書き方などを指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2 級 ガソリン自動車整備士 16 人受験、13 人合格 2 級 ジーゼル自動車整備士 16 人受験、15 人合格 日本語能力試験 N1 1 人受験、1 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	7 人	11.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(8) 一級自動車工学研究科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	一級自動車工学研究科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2304 単位時間／単位	458 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	1846 単位 時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			2304 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		5 人	0 人	2 人	2 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要） クラス担任制を採用し、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 山陽村上モーター株式会社			
（就職指導内容） ビジネスマナーの指導、面接練習等。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 一級小型自動車 1 人受験、1 人合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。学資負担者との情報共有。		

(9) ICTライセンス学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	I C Tライセンス学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	66 単位時間／単位	43 単位時 間／単位	単位時間 ／単位	23 単位時 間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			66 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人		12 人	0 人	1 人	1 人	2 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）様式第2号の3の「1」に記述した手順を経てカリキュラムを決定し、シラバスを作成した後は、シラバスの科目区分欄に示した方法（講義、演習、実習等）に従って授業を行う。年間の授業計画は公表しているシラバスに詳しい。
成績評価の基準・方法
（概要）試験の結果・出席率・提出物・授業態度等を総合的に評価総合して評価点（100点～0点）を決定する。さらに、この評価点を評価区分「S（100～90）－A（89～80）－B（79～70）－C（69～60）－D（59～0）」で表す。評価区分C以上で当該授業科目認定とする。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、次の要件の確認と手順を踏んで決定している。 1. 認定要件—まず下記4つの要件を満たす必要がある。 （1）学納金が完納されていること。 （2）全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 （3）科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 （4）素行が良好なこと。 2. 進級・卒業判定会議 上記1の要件を満たした者が、さらに進級・卒業判定会議の議を経て、校長に認定されていること。 ※上記1の（2）と（3）の具体的数値は、ホームページの情報公開のページで公開している
学修支援等
（概要）クラス担任制をとり、学資負担者面談や関係機関との連携を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (75%)	1 人 (25%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） ビジネスマナー、面接練習などを行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 株式会社 POST、株式会社システムハウス、アイエヌジー、ティー・エム・シー有限会社、 介護付有料老人ホーム それいゆ			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） きめ細かな個人ガイダンスの実施。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
映像音響学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
電気通信工学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
食品生命科学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
建築工学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
建築工学研究科	220,000 円	740,000 円	180,000 円	教科書代等別途
測量環境工学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
二級自動車工学科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
一級自動車工学研究科	220,000 円	900,000 円	180,000 円	教科書代等別途
ICT ライセンス学科	50,000 円	330,000 円	100,000 円	教科書代等別途
国際情報学科	220,000 円	560,000 円	180,000 円	教科書代等別途
国際機械工学科	220,000 円	560,000 円	180,000 円	教科書代等別途
国際自動車工学科	220,000 円	560,000 円	180,000 円	教科書代等別途
進学準備学科	220,000 円	500,000 円	120,000 円	教科書代等別途
日本語学科	100,000 円	500,000 円	120,000 円	教科書代等別途
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法			
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)			
https://www.oist.ac.jp/report.html			
☐ 自己評価／令和6年度自己評価			
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)			
校内委員と校外委員とで構成する委員の出席により、年1回開催する。校外委員は、設置学科と関連した業種の企業関係者とPTA、卒業生で構成する。 文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて全教職員に実施した自己評価に加え、学校長が作成した自己点検・自己評価資料をもとに、上記委員で構成する委員会にて総合的に評価する。 結果は、学校関係者評価報告書にまとめて全教職員に配付するとともに、ホームページ上に公表する。各部署では評価結果を検討し、その後の改善に努める。			
〔評価項目〕			
教育理念、学校経営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献			
学校関係者評価の委員			
所属		任期	種別
会社代表者または役員	10 名	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	企業関係者
学生支援会代表	1 名	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	PTA

同窓会代表	1 名	令和 7 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法			
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oist.ac.jp/report.html ☐ 学校関係者評価／令和 5 年度学校関係者評価報告			
第三者による学校評価 (任意記載事項)			

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oist.ac.jp/
--